

市民・事業者アンケートのまとめ（修正案）

1. 調査の概要

(1) 調査対象

市民 3,000 人、事業所 200 件

(2) 実施期間

令和元年 7 月 26 日～令和元年 8 月 9 日

(3) 配布・回収方法

無作為抽出による郵送配布・郵送回収

(4) 回収結果

	配布数	回収数	回収率
市民	3,000 件	886 件	29.5%
事業者	200 件	64 件	32.0%

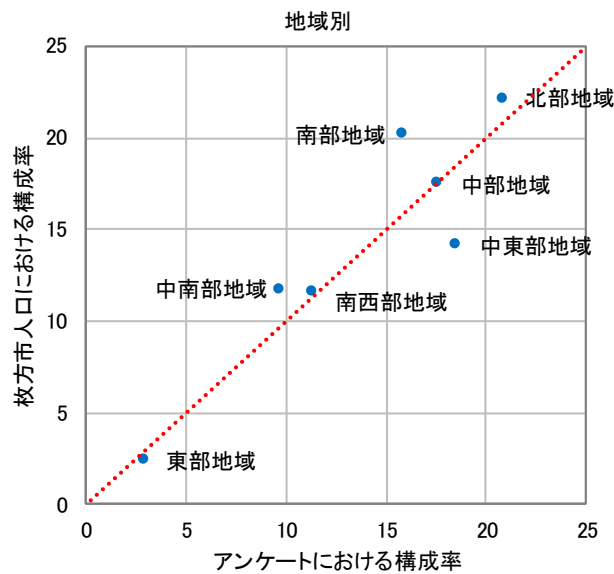
2. 市民アンケート集計結果の概要について

(1) 市民アンケートの補正集計について

本アンケートは無作為抽出法により行いましたが、回答者の地域構成や年齢構成を見ると、枚方市の地域別人口構成や年齢別人口構成に差がある部分が見られたため、相関関係を見ることで、補正集計の必要性について検討しました。

①地域別について

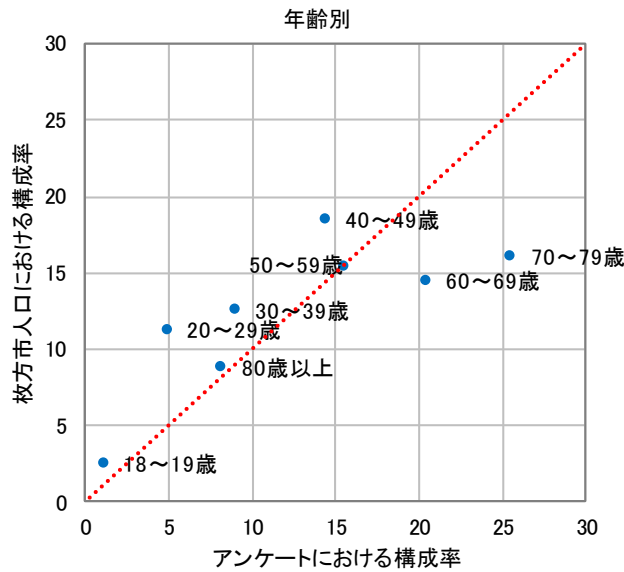
アンケートの地域別回収結果と枚方市の地域別人口構成の相関関係を以下の図に示します。



上記結果の相関係数は 0.92 と非常に高いため、今回は補正集計の必要はないと考えました。

②年齢別について

アンケートの年齢別回収結果と枚方市の年齢別人口構成の相関関係を以下の図に示します。

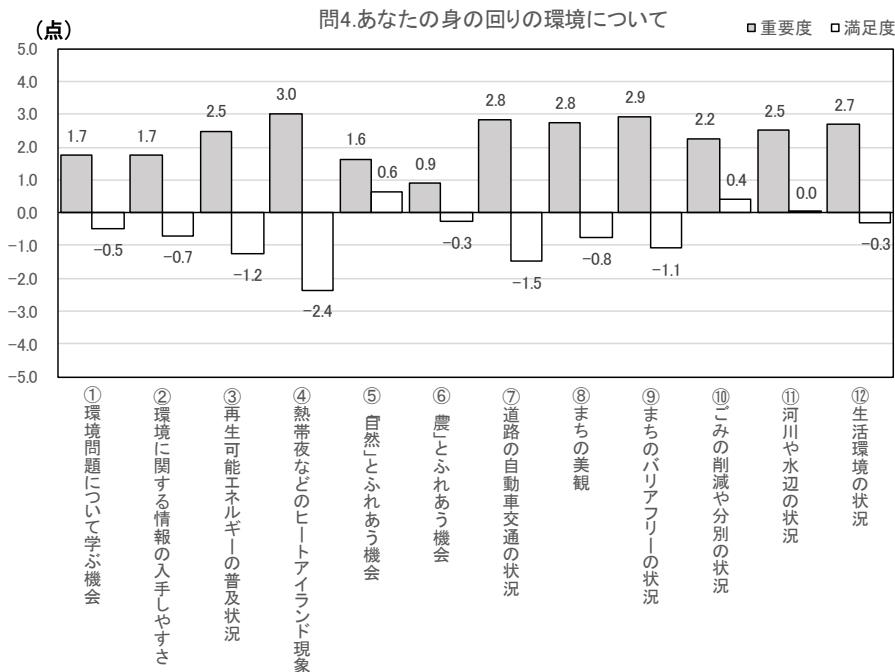


上記結果の相関係数は 0.78 であり、相関関係があるといえますが、20~49 歳のアンケートの回収比率が低い傾向にあるため、年齢別については補正集計が必要と考えました。

(2) 補正集計による基本目標の優先順位と基本施策や施策の方向性に盛り込むべき事項について

①市民アンケート「問4」の身の回りの環境の重要度、満足度について

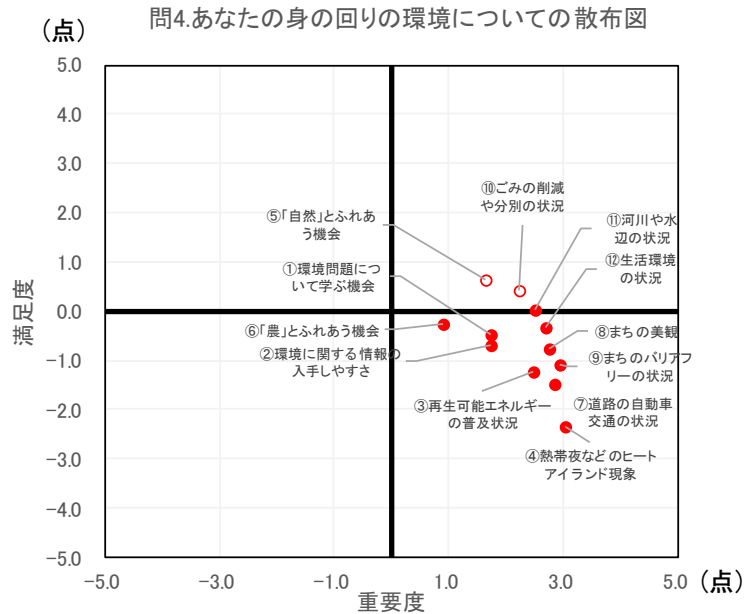
補正あり



満足度・重要度に対する評価の数値は、以下の算式にて求めています。

$$\text{満足度 (重要度)} = (\text{「満足」、「重要」} \times 5 \text{点} + \text{「どちらかといえば満足」、「どちらかといえば重要」} \times 2 \text{点} + \text{「わからない」} \times 0 \text{点} + \text{「どちらかといえば不満」、「どちらかといえば重要でない」} \times -2 \text{点} + \text{「不満」、「重要でない」} \times -5 \text{点}) \div \text{回答者数}$$

補正あり



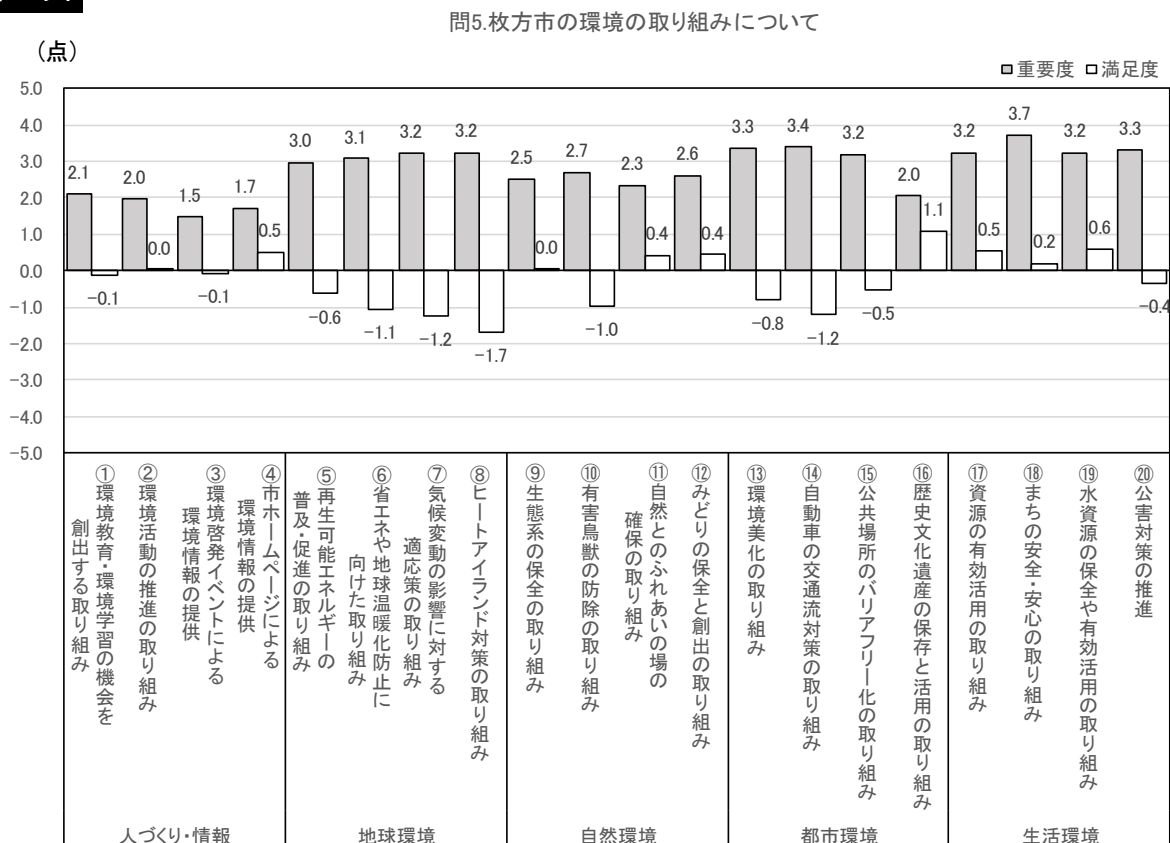
- 満足度が低い項目・・・「熱帯夜などのヒートアイランド現象」「道路の自動車交通の状況」「再生可能エネルギーの普及状況」「まちのバリアフリーの状況」
- 重要度が高い項目・・・「熱帯夜などのヒートアイランド現象」「道路の自動車交通の状況」「まちのバリアフリーの状況」「まちの美観」「生活環境の状況」
- 重要度と満足度の差が大きい項目・・・「熱帯夜などのヒートアイランド現象」「道路の自動車交通の状況」

(基本目標単位での結果)

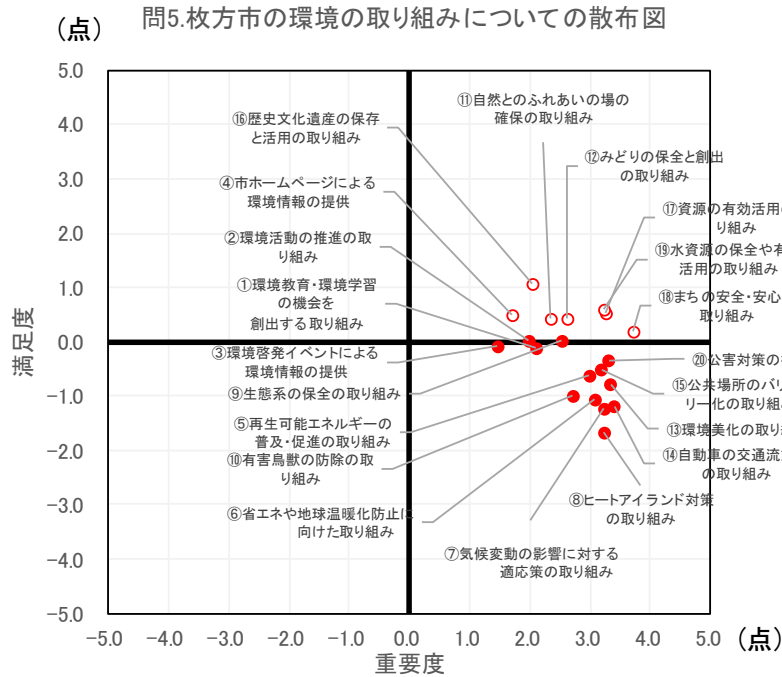
1位：地球環境 2位：都市環境 3位：生活環境 4位：人づくり・情報 5位：自然環境

②市民アンケート「問5」の枚方市の環境の取り組みの重要度、満足度について

補正あり



補正あり



- 満足度が低い項目・・・「ヒートアイランド対策の取り組み」「気候変動の影響に対する適応策の取り組み」「自動車の交通流対策の取り組み」「省エネや地球温暖化に向けた取り組み」
- 重要度が高い項目・・・「まちの安全・安心の取り組み」「自動車の交通流対策の取り組み」「環境美化の取り組み」「公害対策の推進」
- 重要度と満足度の差が大きい項目・・・「ヒートアイランド対策の取り組み」「自動車の交通流対策の取り組み」

(基本目標単位での結果)

1位：地球環境 2位：都市環境 3位：生活環境 4位：自然環境 5位：人づくり・情報

③基本目標の優先順位について

市民アンケートの結果からは、環境の現状や市の環境施策に関して、「地球環境」や「都市環境」に関する事項で重要度と満足度の差が大きく、この分野について、第3次環境基本計画では、重点的に取り組む必要があると考えられます。

④基本施策や施策の方向性に盛り込むべき事項について

市民アンケートの結果からは、「ヒートアイランド対策の取り組み」や「自動車の交通流対策の取り組み」「気候変動の影響に対する適応策の取り組み」「省エネや地球温暖化防止に向けた取り組み」「環境美化の取り組み」が比較的、重要度と満足度の差が大きく、「地球環境」に関する項目とともに日常生活に直結した分野への関心度が高いことがわかりました。このため、「地球環境」の分野とともに、都市としての交通便利性やまちの美観などについて、第3次環境基本計画では、重点的に取り組む必要があると考えられます。

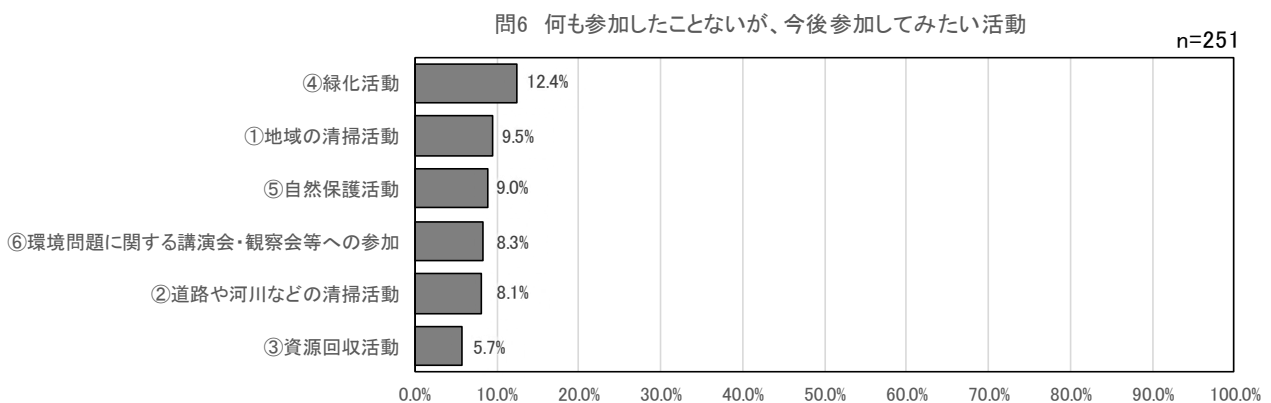
（3）市民の環境保全活動の促進のための施策の方向性について

市民アンケート「問6」の結果からは、良く参加している、もしくは時々参加することがある環境保全活動は、「資源回収活動」、「地域の清掃活動」の順で多くなっており、第3次環境基本計画では、こうした環境保全活動の場を継続して、創出することが求められています。

また、参加したことがない環境保全活動のうち、「今後、参加してみたい」活動は、「自然保護活動」「緑化活動」の順で多くなっており、第3次環境基本計画では、「自然環境」の分野において、市民の環境保全活動の促進のための施策を充実していく必要があると考えられます。

何も環境保全活動に参加していない人が、今後参加してみたいと考えている活動

補正あり



また、環境保全活動に全く参加したことがない人（全体の29.0%）のうち、23.1%の人が今後参加してみたい活動を選択しており、「緑化活動」「地域の清掃活動」「自然保護活動」の順で多くなっています。こうした活動の場を創出することで、環境保全活動に参加する方の拡大につなげていく必要があると考えられます。

市民アンケート「問7」の結果からは、9割以上の市民がごみはルールに従ってきちんと分別していることがわかりました。また「ごみのポイ捨てをしない（85.3%）」「油や食べかすなどを排水口から流さない（75.7%）」などについても、多くの市民が日ごろから取り組んでおられることがわかりました。

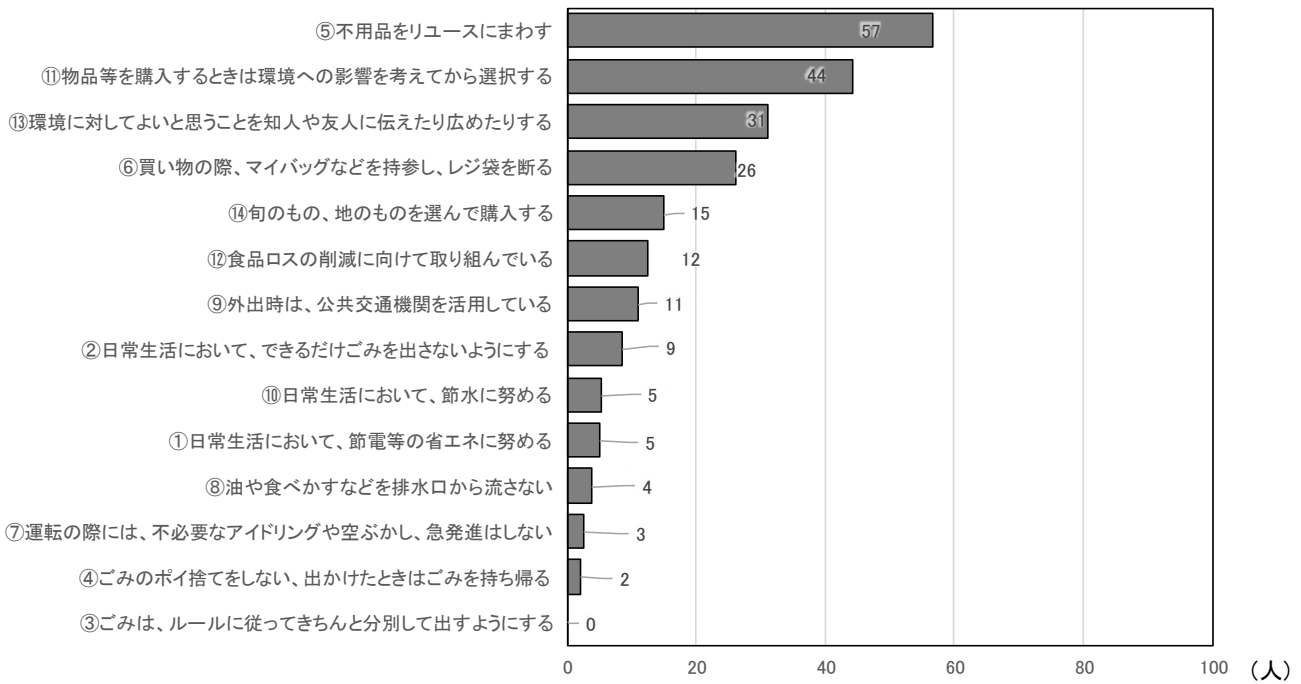
一方で、「環境に対してよいと思うことを知人や友人に伝えたり広めたりする」「不用品をリユースにまわす」「物品等を購入するときには環境への影響を考えてから選択する」については、日常的に取り組んでいる市民が少なく、また、今後、取り組んでみたいと考えている人が多いことから、今後は、リユースやグリーン購入といった分野を中心に環境教育・学習や情報提供を行っていく必要があると考えられます。

また、枚方市民の環境保全行動に取り組んでいる人の割合は、全国平均と比較して高くなっており、今後も環境保全行動を促進していく必要があると考えられます。

今後取り組んでみたい環境保全活動

補正あり

問7.今後取り組んでみたい環境保全の行動

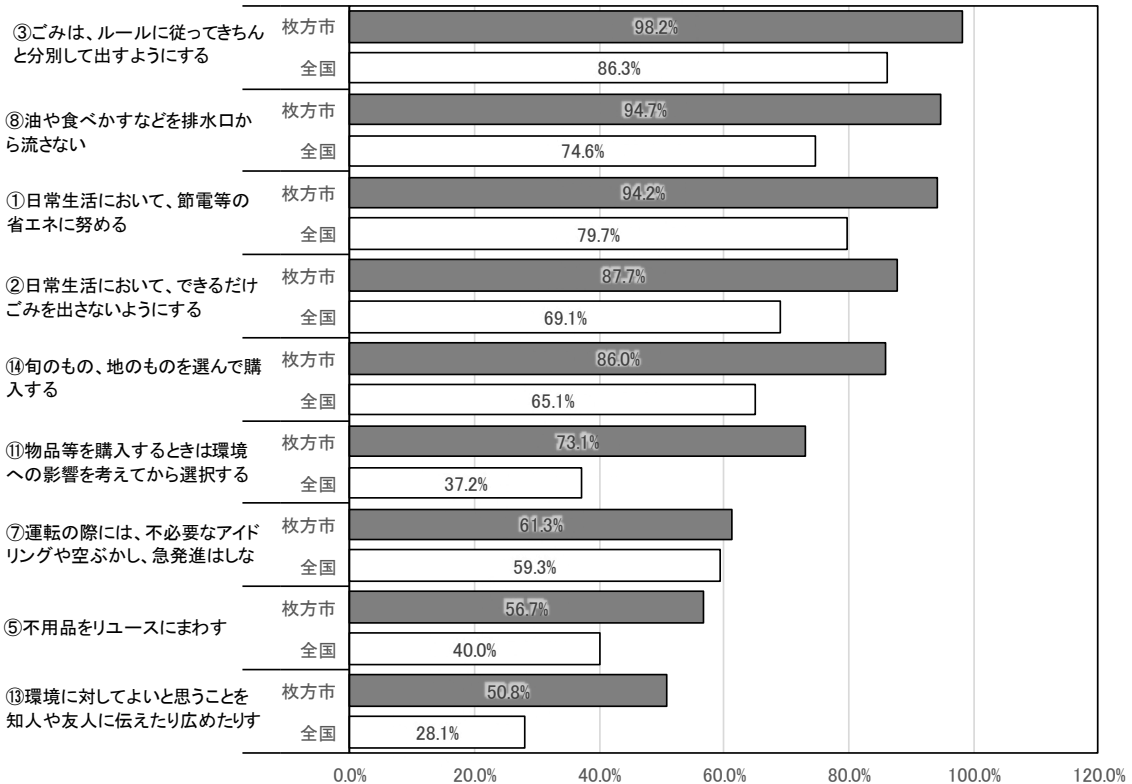


環境配慮行動を実践している人の割合（国との比較）

補正あり

問7.環境配慮行動を実施している人の割合

枚方市 n=866
全国 n=2631



※全国の値は平成28年度に行われた「環境にやさしいライフスタイル実態調査 国民調査の結果」を参照しています。

（4）重点的に取り組むべき施策について

市民アンケート「問8」の結果からは、市に期待する環境保全施策については、「こどもに対する環境教育（45.2%）」「環境に関する情報提供（32.9%）」「市施設などへの環境配慮設備の率優先導入（31.4%）」の順で多いことがわかりました。

第3次環境基本計画では、市の施策として、環境教育・学習の場の創出や環境情報の積極的な提供、市施設への環境関連設備の率先導入を位置付けていく必要があると考えられます。

（5）環境情報の提供手法について

市民アンケート「問9」の結果からは、「環境」に関する情報を取得する手法は、「広報ひらかた（72.2%）」「テレビやラジオ（52.5%）」「新聞・雑誌・ミニコミ誌（49.5%）」の順で多いことがわかりました。

また、今後活用を期待する手法は、「出前講座や環境イベント（43.5%）」「環境啓発パンフレット（41.2%）」の順で多いことがわかりました。

今後は、引き続き、広報ひらかたやFMひらかたなどを活用した情報提供を行うとともに、出前講座や環境イベントの機会の拡大、環境啓発パンフレットを活用した環境情報の提供を積極的に行っていく必要があると考えられます。

（6）新しい環境問題の認知度について

市民アンケート「問10」の結果からは、新しい環境問題の認知度について、「海洋プラスチック問題・マイクロプラスチック問題」の認知度は、「内容を知っている」、「聞いたことがある」を合わせると89.3%となっていますが、「SDGs」に関しては、37.6%であることがわかりました。

今後は、「SDGs」の認知度を上昇させるため、使い捨てプラスチックごみのポイ捨て防止の取り組みなどを通して、こうした取り組みが「SDGs」の目標達成につながっていくことを周知・啓発していく必要があると考えられます。

（7）枚方市の環境の10年後、30年後の望ましい姿について

市民アンケート「問11」の結果からは、10年後の望ましい環境の姿については、「緑や水辺など自然環境が保全されたまち（56.5%）」「ごみのポイ捨てなどがなく環境美化が進んだまち（39.8%）」「公害のない良好な生活環境が確保されたまち（37.4%）」の順となりました。

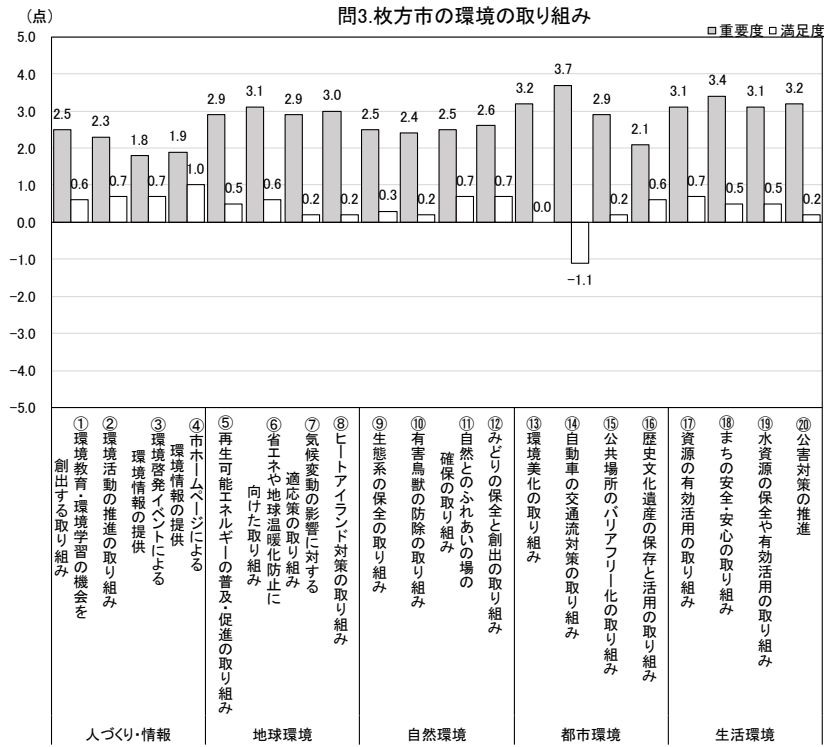
枚方市の環境の10年後の望ましい姿について、自然環境と都市環境の保全などのバランスを重視する意見が多いことがわかりました。

30年後の望ましい環境の姿については、様々な環境のバランスを重視する意見が多く、また、分野としては、10年後の望ましい環境の姿と比較して大きな変化はありませんでした。

3. 事業者アンケート結果から把握できた事項

(1) 基本目標の優先順位と基本施策や施策の方向性に盛り込むべき事項について

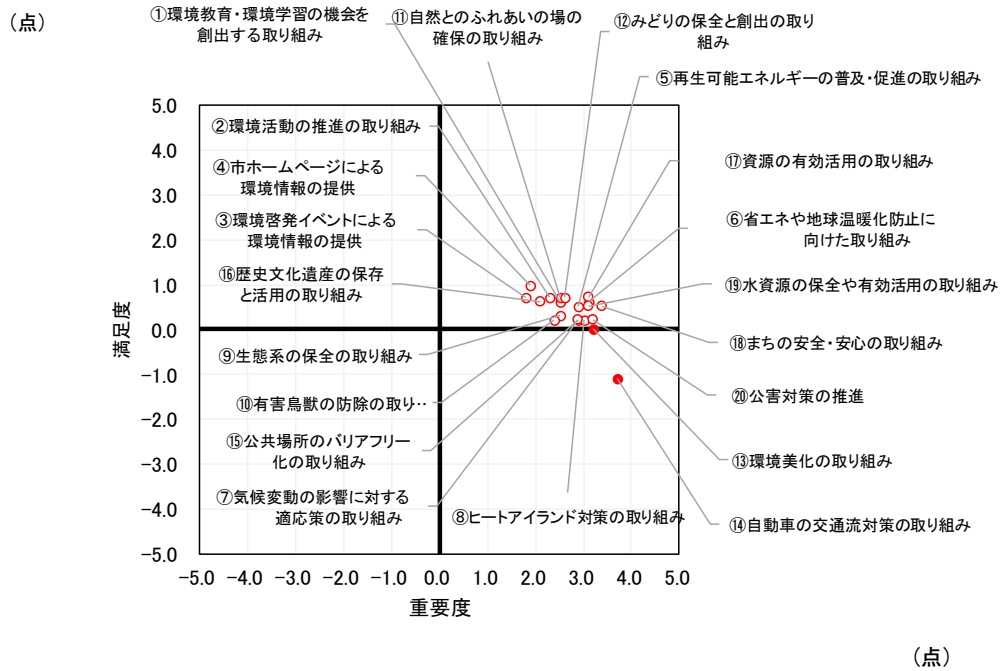
①事業者アンケート「問3」の枚方市の環境の取り組みの重要度、満足度について



満足度・重要度に対する評価の数値は、以下の算式にて求めています。

$$\text{満足度 (重要度)} = (\text{「満足」、「重要」} \times 5 \text{点} + \text{「どちらかといえば満足」、「どちらかといえば重要」} \times 2 \text{点} + \text{「わからない」} \times 0 \text{点} + \text{「どちらかといえば不満」、「どちらかといえば重要でない」} \times -2 \text{点} + \text{「不満」、「重要でない」} \times -5 \text{点}) \div \text{回答者数}$$

問3.枚方市の環境の取り組みの散布図



○満足度が低い項目・・・「環境美化の取り組み」「気候変動の影響に対する適応策の取り組み」
「ヒートアイランド対策の取り組み」「有害鳥獣の防除の取り組み」
「公害対策の取り組み」「自動車の交通流対策の取り組み」
「公共場所のバリアフリー化の取り組み」

○重要度が高い項目・・・「自動車の交通流対策の取り組み」「まちの安全・安心の取り組み」
「環境美化の取り組み」「公害対策の取り組み」

○重要度と満足度の差が最も大きい項目・・・「自動車の交通流対策の取り組み」

(基本目標単位での結果)

1位：都市環境 2位：生活環境 3位：地球環境 4位：自然環境 5位：人づくり・情報

②基本目標の優先順位について

事業者アンケートの結果からは、環境の現状や市の環境施策に関して、「都市環境」「生活環境」「地球環境」の順で、重要度と満足度の差が大きく、この分野について、第3次環境基本計画では、重点的に取り組む必要があると考えられます。

また、事業者アンケートでは、市民アンケート結果とは異なり、「生活環境」に関する分野の重要度が高い傾向となりました。

③基本施策や施策の方向性に盛り込むべき事項について

事業者アンケートの結果からは、「自動車の交通流対策の取り組み」が特に、重要度と満足度の差が大きく、この分野について、第3次環境基本計画では、重点的に取り組む必要があると考えられます。

（2）事業者の環境保全活動の促進のための施策の方向性について

事業者アンケート「問4」の結果からは、良く参加している、もしくは時々参加することがある環境保全活動は、「事業所周辺の清掃活動（57.8%）」、「地域の清掃活動や美化活動への参加・協力（51.6%）」の順で多くなっており、第3次環境基本計画では、こうした環境保全活動の場を継続して、創出することが求められています。

事業者アンケート「問5」の結果からは、日常的に取り組まれている事業者による環境保全行動は、「冷暖房の適正管理やクールビズ・ウォームビズ（75.0%）」「受動喫煙防止の取り組み（53.1%）」「省エネ技術や省エネ機器の導入（45.3%）」の順であることがわかりました。

また、今後取り組んでみたい環境保全行動は、「ごみの量の把握やごみ減量のための取り組み（41.7%）」「省エネ技術や省エネ機器の導入（22.7%）」「電気自動車などの低公害車の導入（18.0%）」の順となりました。今後は、ごみの量の把握やごみ減量のための取り組みへの支援が必要であると考えられます。

（3）重点的に取り組むべき施策について

事業者アンケート「問6」の結果からは、市に期待する環境保全施策については、「環境に関する情報提供（50.0%）」「環境配慮設備への補助金などの財政的支援（40.6%）」の順で多いことがわかりました。

第3次環境基本計画では、市の施策として、環境情報の積極的な提供や環境配慮設備の導入支援が必要であると考えられます。

（4）環境情報の提供手法について

事業者アンケート「問7」の結果からは、「環境」に関する情報を取得する手法は、「広報ひらかた（64.1%）」「枚方市ホームページ（43.8%）」「新聞・雑誌・ミニコミ誌（37.5%）」の順で多いことがわかりました。

また、今後活用を期待する手法は、「SNS（53.1%）」「出前講座や環境イベント（51.6%）」の順で多いことがわかりました。

今後は、引き続き、広報ひらかたや枚方市ホームページなどを活用した情報提供を行うとともに、出前講座や環境イベントの機会の拡大を行っていく必要があると考えられます。